

538
武庫川女子大 出版5社社長ら講演



学生からの質問に答える出版社の社長ら＝西宮市

本づくりの魅力語る

就職希望の学生対象に

出版業界への就職を希望する学生を対象にした講演会「なぜ、私たちはこんなにもこの仕事が好きなのか——出版社が求める将来の人材・出版社が創り出す将来の読者——」が武庫川女子大（西宮市）で開かれ、出版社の社長らが出版不況の現状や本づくりの魅力、話題の電子書籍などについて幅広く語った。

東京に本社がある筑摩書房、東京創元社、平凡社、あかね書房、柏書房の5社が参加。筑摩書房の菊池明郎顧問は20年前をじーくに業界全体で売り上げ減が続いている状況を説明しながら「厳しさはあるが、工夫次第で利益につながる」と述べた。また、東京創元社の長谷川晋一社長は編集という仕事の魅力を「本をつ

くる醍醐味は娘を育て上げて嫁がせる感覚に似ている」と語り、平凡社の下中社長は「本を愛し、仕事を通じてその分野を究められる人を求めている」と呼びかけた。

続いて、武庫川女子大や立命館大、近畿大など関西7大学の学生との質疑応答が行われ、学生からは近年普及が進む電子書籍に関して質問が集中。書店や図書館の衰退につながるのではと懸念する学生に対し、下中社長は「料理をおいしく見せるように、本は装丁や文章の構成など読みやすい工夫をちりばめている」と紙媒体ならではの魅力を説き、他の社長らも「今後も紙の本はなくなるらない」と話した。